



当院での情報通信技術の活用



副院長・情報室長
ほんだ まさはる
本多 正治
(外科医師)

コンピュータが進歩し、チェス・囲碁・将棋の名人をも打ち負かすようになり久しくなります。

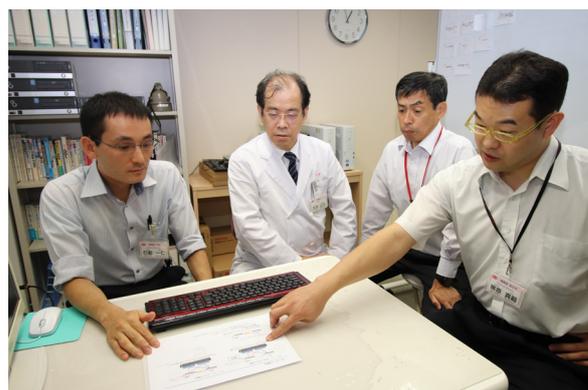
医療の世界でも、AI（人工知能）が内視鏡に搭載され、内視鏡専門医でも診断が難しいようなごく早期の胃癌を、瞬時に発見できるシステムが開発されました。まもなく実用化されると思われます。

ICT（情報通信技術）の発展は目覚ましく、当院でも時代の波に乗り遅れないよう、日々悪戦苦闘しています。放射線の医師が不在の当院では、CT検査やMRI検査画像をインターネット経由で放射線専門医に送信し、検査所見が返信される遠隔読影は以前から導入しておりました。最近、スマートフォンで診察を行い医療機関を受診しなくても、処方箋を郵送できるオンライン診療も導入しました。さらには、電子カルテを真生会富山病院内で開発しており、2019年5月に完成予定です。使いやすいカルテに仕上げることを第1目標としていますが、将来的には、射水市民

の疾病の傾向を分析し、的確な対策をとれるようにしたいと思っています。また開業医の先生方や他の医療機関と、患者の医療情報を共有し、医療・介護・福祉の連携を取り、地域包括ケアシステムを構築することも目標としています。

人工知能による第四次産業革命の時代が到来し、2020年には人間の仕事の3割がロボットに置き換わるだろうと報道されています。真生会富山病院も、これから種々のコンピュータ技術を導入してゆく予定です。

しかし最も大切なことは、人と人とのつながりであり、患者の皆様と職員の笑顔です。ICTにより、自動化できるところを自動化すれば、時間の余剰が生まれます。生み出された時間で患者と医療者のコミュニケーションを充実させることが治療の効果をも高め、笑顔に結びついていくのではないかと思います。



情報室のスタッフと毎週行っている会合



第7回地域連携交流会 開催の報告

地域医療部 医療ソーシャルワーカー そうまん ようすけ 惣万 洋輔

射水市内の医療と福祉に携わる支援者の方にお越しいただき、当院の医師をはじめ、多職種が参加し、6月12日（火）に開催しました。今年度は射水市内の居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、訪問看護ステーション、射水市役所地域福祉課、在宅受入可能薬局の54名の方が参加されました。当院からは医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、歯科衛生士、医療ソーシャルワーカーが参加し、全体では100名を超えました。

例年通り、前半は講演を行い、コーヒブレイクを挟んで、後半はグループワークを行いました。前半は、「がん患者の在宅看取り」をテーマに当院緩和ケア認定看護師である長久栄子看護師の講演でした。看取りの主体は本人であることを前提に、本人の意思決定プロセスであるACP（アドバンス・ケア・プランニング）や在宅看取りを行うために必要な病気の知識と在宅緩和ケアネットワークについて話がありました。

後半では、「私の看取り」をテーマにグループワークを行いました。グループメンバーを入れ替えて話し合う、ワールド・カフェ方式（カフェのようなくつろいだ雰囲気の中で自由に意見交換をする）で行ったこともあり、多くの人と意見を交わすことができ、普段あまり考える機会の少ない「私の看取り」について終始、各グループで活発な話し合いが行われていました。

グループワークの最後に各グループが発表を行い、グループ毎に様々な意見が出された中で、自分にとっての大切な人に看取ってほしいという意見が多くありました。自分自身の看取りを考えることをきっかけに、在宅看取りの支援について考える機会になったと思います。

講演やグループワークを通して、誰にでも訪れる「死」について多職種で話し合えたことで、有意義な時間を過ごすことができたとの意見をいただきました。今後も、顔の見える関係づくりをし、多職種との交流が深まるような場の提供を行っていこうと思います。



「がん患者の在宅看取り」をテーマに講演した長久栄子看護師（緩和ケア認定看護師）

【参加した当院職員の感想】

本藤有智 医師（消化器センター）

普段接することのあまりないケアマネジャーの方々と親しくお話することができ、貴重な機会でした。ワールド・カフェ形式は初めてでしたが、他のグループに出向くことで交流の幅がさらに広がり、意見も広がって、企画の目的に合致したものと思いました。番号札やゴミ箱が可愛らしく装飾してあったり、ぬいぐるみが置いてあったりして和やかな空間づくりに心配られていて良かったです。医師の自己紹介がもっとあると更に盛り上がったと思います。



ワールド・カフェ形式のグループワーク

上島久美 看護師

参加させていただき有難うございました。直接、在宅での現実を聞くことができ、大変勉強になりました。深く考えさせられました。グループワークでは医療者・薬剤師・ケアマネジャーなど様々な職種の方と話すことができました。一事例でも多方面からの見方、考え方がありました。本当に沢山の気づきがありました。次回も是非参加したいと思いました。



宮下希世香 管理栄養士

ワールド・カフェ式の交流会は初参加でしたが、“聴く”ことに集中でき、トータルで有意義な交流会になりました。

グループワークの後、各テーブルで出た意見を発表しました。

部署紹介：経営企画部 企画課

課長 ほまな 濱名 たかゆき 孝行

当法人の理念とビジョン実現に向けて、部署横断的に働きかける部署として発足し4年が経ちました。経営上の数字だけを追うのではなく、人材や組織の活性化の面からも法人全体を支える役割を担うことを目指しています。それは、以下の3つの役割です。

①現状分析

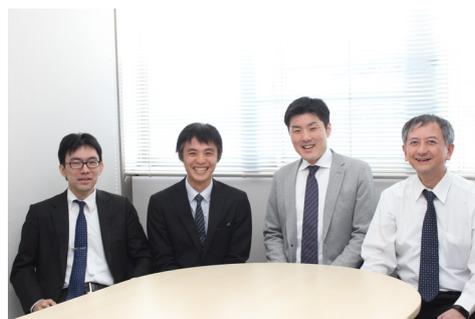
まず取り掛かったのは、現状の事実の見える化です。診療科や部署の活動を分類して見えるようにしました。これは、病院として解決すべき課題を抽出し、解決へのコミュニケーションの出発点をつくる役割です。具体的には、月次で数字を追ってグラフ化した、マンスリーレポートです。

②組織の『神経系統』づくり

病院には、多くの異なる職種、そして経営層・管理職・一般職員と、縦横、様々な人たちが働いています。違う背景を持ちながら、患者さんや地域に安心満足をお届けするという共通の目的があります。それぞれが何を考え、何を指すのかを理解し、協力し合える仕組みが必要です。例えば、中期・年度事業計画や、それを各部署や個人の目標に展開する、通称「目標チャレンジ活動」や、毎月の経営会合等の会合があります。しかし、仕組みだけ整備しても人は動きません。今の時代、先行きが不透明で、誰か一人の力で明るい未来を描き切るのは困難と言えます。そのような状況では、一人ひとりが持ち場で考え、その考えをつなぎ合わせて具現化する必要があります。各部門が自律的に判断して動けることの支援もまた大きな役割の一つです。

③課題やプロジェクトへの対応

患者さんや地域の方々は何を当院に望んでおられるのか、職員がどう生き生きと働くことができるのか、仕事のやり方も時の流れとともに変わっていきます。社会の大きな変化とともに、病院もまた変化することを求められます。地域連携や在宅分野への取り組み支援、業務効率アップ、人事制度の整備等、当法人にとって必要な事業を考え、プロジェクトとして支援していくことも役割です。



企画課のメンバー

過去を振り返り、未来を見据え、当法人のみならず地域を支える、縁の下の力持ちを目指したいと思います。

「感謝の集い」開催

9月29日（土）に「感謝の集い」を開催しました。当院は今年で創立30周年を迎えました。これまで支えてくださった地域の皆さまに感謝の気持ちを込めて企画したイベントです。ご参加いただいた皆さまにこの場を借りて御礼申し上げます。

当日は、医師、看護師、薬剤師の体験ができる「医療なりきり体験コーナー」、ローリング射的やストラックアウトといった10種類以上のゲームが楽しめるゲームコーナーなどいずれのコーナーも大盛況でした。改めて地域の皆さまが当院を温かく見守ってくださっていることを肌で感じました。

今後とも地域の皆さまに愛される病院をめざしてまいります。



オープニングイベントのくす玉割り



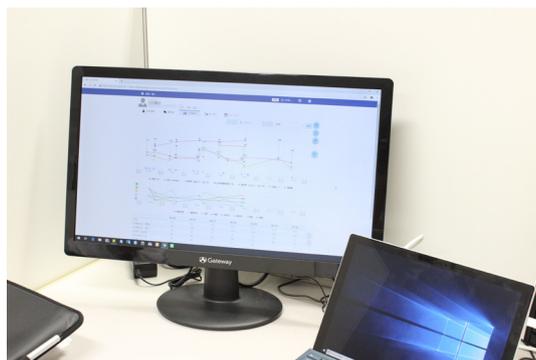
医療なりきり体験コーナー（左・中央）とゲームコーナー（右）

バイタルリンクを導入しました — 在宅統括室

在宅統括室 室長補佐 佐々木 彰一（内科医師）

地域包括ケアシステム推進の一環として、7月より「バイタルリンク」が導入されました。在宅医療では、入院による治療と違ってケアマネジャー、ヘルパー、自治体職員など、多職種のスタッフが関わります。在宅患者さんの情報はこれまで、電話やFAX、ノートのやりとり等で共有されてきました。患者さんの情報を、電子情報として、多職種で同時に共有したいという思いがありました。一方で、患者さんの情報は個人情報ですから、万が一にも流出することがあってはなりません。この相反する課題を解決するために導入されたのが「バイタルリンク」です。まず、許可された端末にのみ、電子証明書を発行します。その上で、登録者が、専用のIDとパスワードを入力すれば、その端末で、どこでもバイタルリンクに接続することができます。

このシステムは、厚生労働省「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」に準拠したシステムです。多職種で関わり、スムーズな情報共有が必要な患者さんに、大いにこのシステムを用いて、より安心満足して、ご自宅で過ごしていただけるよう、力を尽くしたいと思います。



バイタルリンクにアクセスするためには、「電子証明書」と「ID・パスワード」の2つが必要